



岡山産業保健総合支援センター

《おかやまさんぽメールマガジン》 第 82 号 2014 年 12 月 1 日(月)



INDEX

1 相談員便り

『エボラより心配しなくてはならないこと』

メンタルヘルス相談員 勝田吉彰

2 センターからのお知らせ(相談・研修・行事案内)

* 平成 26 年度研修会のご案内

3 編集後記

1 相談員便り

『エボラより心配しなくてはならないこと』

メンタルヘルス相談員 勝田吉彰

2014 年も師走となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。今年一年振り返り、医学的に大きな話題といえば、エボラ熱の流行でしょう。私自身、かつて前職の外務省時代にアフリカ勤務が長くスーダン・コンゴ・ガボンといったかつてのエボラ発生国に駐在や公務出張をしていたこともあり、各テレビ局やラジオ局を駆け回り自分でも何回引っ張り出されたのか把握できていない状況です。

そんなエボラの流行は、先進国と途上国でまったく意味が異なります。「日本の国内でエボラが大流行して日本人がバタバタ亡くなる可能性・・・というのはゼロと断言できます！」とは私自身、カメラの前で何度も繰り返したところですが、他方、リベリア・ギニア・シエラレオーネの3国では(執筆時点の11月では)勢い衰える気配がなくマリでも懸念される

事態が起こっています。国際社会の対策はようやくエンジンがかかり始めてはいるので、この稿がアップされる12月には状況が改善し始めているのを期待したいところですが。

今回は、我々産業保健の現場で、特に海外に出張者や駐在員を送り出す企業の現場で、エボラ以上に現実的に注意を払わねばならない病気を紹介したいと思います。

1. デング熱・チクングニヤ熱

デング熱の国内発生が今年初めて大きく報道され、この病気がいかに注目されることになりました。デング熱は、いま東南アジアで感染者数が急増していますが、そこは経済界の「チャイナ・プラス・ワン」の潮流にのって企業駐在員や出張者として人の行き来が非常に増えている地域でもあります。代々木公園を中心とする国内発生のニュースでは日本人総ビックリでしたが、その感染者数は100人台。しかしアジアの国々では万人単位というのがざらにあります。

症状は発熱・頭痛・関節痛など一見風邪と共通していますが、実際にはずっと強くあらわれ、また、目の奥の痛みをうったえるケースも多いようです。発赤や腫脹もみられます。通常1週間程度で回復しますが、解熱剤の使用にあたって適切でない薬もありますので、勝手にコンビニ等で購入して服薬するのではなく受診して処方してもらうのが良いでしょう。

蚊(ヒトスジシマカ、ネッタイシマカ)によって媒介される疾患ですから、蚊に刺されない対策が重要になります。長袖長ズボンの着用、蚊取り線香、虫よけスプレー。蚊取り線香は、虫よけ成分のピレスロイドが十分に入っている日本製がおすすめですので持ってゆくよう指導します。逆に虫よけスプレーは、成分の DEET が、日本では妙な規制があり最大12%まで(2時間程度しか有効でない。2時間ごとに塗り直す必要あり)です。海外にゆけば DEET20%から80%までいろいろありますので、最初の1本だけ手荷物で持参し(空港に降り立ったときから蚊がいる)、あとは現地の薬局やスーパーでしっかりラベルを見て濃度を確認しながら調達するのも一法です。

もうひとつ、チクングニヤ熱も同じくヒトスジシマカ、ネッタイシマカで媒

介されます。こちらは今年カリブ海諸国で猛威をふるっていて、ジャマイカ共和国では10月に国家非常事態宣言(national emergency)を宣言しました。感染症流行で国家非常事態宣言とは、エボラの専売特許ではないのです。

2. MERS

中東呼吸器症候群。サウジアラビアを中心に中東で流行する呼吸器疾患です。昨年日本でも報道されましたが、いまはエボラ報道の陰にかくれてほとんど報道されません。しかしながら、執筆中の11月にも発生はとまらず、サウジアラビアの感染者数は800例を超えてしまいました。

この疾患は飛沫感染をしますが、問題は、イスラム教徒のメッカ巡礼で押し合いへし合いしているうちに感染し、居住国に持ち帰ってしまうおそれがあることです。そして実際、インドネシアやマレーシアといったアジアの国々でもすでに持ち帰り症例(輸入例)が報告されています。日本人のイスラム教徒も、1万人いるといわれています。エボラよりよほど国内持ち込み可能性の高いのがこの疾患です。今後の動向から目が離せません。

3. しっかり情報収集を！

海外に渡航するとき、人を海外に送り出す際には、現地でどのような疾患が流行しているのか、その性質はとしっかり情報を集めてからゆきましょう(と指導しましょう)。いくつかの役立つサイトです。

外務省海外医療事情(外務省医務官情報)

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/>

検疫所情報(Forth)

<http://www.forth.go.jp/>

2 センターからのお知らせ(研修・新着図書)

■ 平成26年度 岡山労災病院産業保健研修会のご案内 ■

実際に産業保健現場で実務を行う機会のある方を支援するための事例検討を中心とした『アドバンスコース』として実施します。職種は問いません。産業医の生涯研修単位を取得できます。

初めて受講される方には総論内容をまとめたDVDの視聴を推奨します。
(DVD入手は、<http://www.unit-gp.jp/eisei/wp/?p=1809>)
※DVD入手の際に必要な『キーワード』は、研修会申込時にお知らせします。

受講料：3,000円

(資料代としてNPO法人が管理します。受付時にお支払い下さい。)

定員：40名

◆平成26年12月11日(木) 19:00～21:00

演題：メンタルヘルス対応 現職復帰の是非
グループワークによる事例検討

講師：高尾総司(岡山大学大学院 疫学・衛生学分野 講師)
岸本卓巳(岡山労災病院 副院長)

場所：岡山労災看護専門学校(岡山労災病院敷地内) 1階会議室

単位：生涯専門1単位、生涯実地1単位

・・・産業保健研修会の詳細は、こちらでご確認ください。

<http://www.okayama-sanpo.jp/01-ke.html>

■ 岡山産業保健総合支援センター主催セミナー・研修会 ■

⇒⇒⇒ 会場が「ピュアリティまきび」の研修会

場所：ピュアリティまきび 会議室(岡山市北区下石井 2-6-41)

受講料：無料

※ お車でお越しの際は、ピュアリティまきびの駐車場をご利用ください。
駐車場は無料をご利用いただけます。駐車券は、お帰りの際にフロントまでお持ちください。但し、駐車場が満車の場合はご利用いただけません。ご注意ください。

研修会・セミナーの情報・お申込はこちらからどうぞ

<http://www.okayama-sanpo.jp/01-ke.html>

日 時： 12/3(水)14:30～16:00

研修テーマ： 健診結果の見方と健康増進

内 容： 健診結果の見方をおさらいし、健康増進活動の事例を紹介します。

講 師： 成松相談員

日 時： 12/11(木)14:00～16:00

研修テーマ： 職域における過重労働・メンタルヘルス対策について

内 容： 職域の過重労働・メンタルヘルス対策についてわかりやすく講演します。

講 師： 道明相談員

日 時： 12/15(月)9:30～11:30

研修テーマ： インフルエンザの最新動向と対策

内 容： 季節性インフル・鳥インフル・MERS等の最新動向

講 師： 勝田相談員

日 時： 2/17(火)14:00～16:00

研修テーマ： 防ごう骨粗鬆症！

内 容： 骨粗鬆症予防のための日常生活の注意について

講 師： 福岡相談員

日 時： 2/25(水)14:00～16:00

研修テーマ： ストレス対処法について

内 容： 講義及びロールプレー

講 師： 大月相談員

【産業看護職向けの研修会】

日 時： 1/20(火)14:00～16:00

研修テーマ： 保健指導の基本

内 容： 保健指導の主役は社員です。ご本人に役立つ支援の仕方について

講 師： 福岡相談員

⇒⇒⇒ 会場が「岡山大学鹿田キャンパス」の研修会

※下記研修会の会場は「岡山大学鹿田キャンパス」
医学部基礎研究棟1階小セミナー室(岡山市北区鹿田町2丁目5番1号)

※受講料無料。駐車場がありませんので、公共交通機関でお越しください。
※シリーズとなっていますが、各研修会単独で受講できます。

※産業保健研修会(岡山労災病院)の講師を務める高尾総司先生の研修会です。「職場は働く場所」の大原則を前提に、メンタルヘルス対策を考えます。

日 時: 12/8(月)14:00~15:30
研修テーマ: 労務管理によるメンタルヘルス対策シリーズ 6
内 容: 第6回 過重労働対策総論

日 時: 1/19(月)14:00~15:30
研修テーマ: 労務管理によるメンタルヘルス対策シリーズ 7
内 容: 第7回 過重労働対策の実際

日 時: 2/16(月)14:00~15:30
研修テーマ: 健康診断事後措置シリーズ 1
内 容: 各論 1 安全配慮義務の履行

日 時: 3/9(月)14:00~15:30
研修テーマ: 健康診断事後措置シリーズ 2
内 容: 各論 2 福利厚生としての実施

産業医研修会・セミナーのお申込はこちらからどうぞ
<http://www.okayama-sanpo.jp/01-ke.html>

▼研修会の受付は各研修会会場で行います。直接、お越し下さい。
▼今後、研修会開催場所に関しては変更になる可能性があります。変更になった場合は、速やかに御連絡いたします。

▼お問合せは、下記アドレス宛にお送りください。

E-mail: info@okayama-sanpo.jp

■新着図書■

01-49 『労働衛生のしおり平成 26 年度』

02-47 『労働基準法 解説総覧』

02-112 『安全衛生法便覧

平成 26 年度版①法令編、②様式・指針編③行政通達編』

02-180 『労働実務 事例研究 平成 26 年度版』

07-186 『健康管理は社員自身にやらせなさい』

※当センター高尾総司相談員の著書です。

▼図書の貸出は無料です。

▼郵送(送料は利用者負担)による貸出もできます。

図書の貸出のお申込はこちらからどうぞ

<http://www.okayama-sanpo.jp/form-kasidasi/form-kasidasi.html>

3 編集後記

今年もあと1ヶ月になりました。今年の年末年始無災害運動は、「安全の足並み揃えて 手を抜かず 年末年始もゼロ災害」を標語として、12月15日～1月15日まで展開されます。年末年始は、あわただしく、生活のリズムも変わりやすく、大掃除や機械設備の保守点検・始動等非定常作業が多くなります。皆様の職場においては、作業前点検の実施、作業手順・交通ルールの遵守、非定常作業における安全確認の徹底に努めてください。

次回の第 83 号は 1 月 5 日(月)の配信予定です。